

○真珠菴しんじゆあん〔一休宗純和尚の塔所、嗣華叟、文明十三年十一月廿一日寂す、八十八歳〕

〔永亨年中建、応仁の火後宗臨一休和尚と心を同じうして、当山の伽藍がらん及び諸院を重興して次第に落成す。宗臨等師に請て此庵を営んとす、師辞して云、先師の塔所悉く兵火す、これを造らば幸甚かうじんならんのみ、於是こゝにおいて先づ如意大用等の祖塔を営す。功終つて後一休和尚薪村酬恩菴たきむらしうおんあんに寂す、宗臨そうりん乃前志ぜんしを続て当庵を新建しんこんして師の塔所とす、方丈の北にあり。宗臨は泉州堺の人、俗名尾和四郎左衛門、文亀元年十一月廿日歿、法号祖溪〕

客殿中間 墨画花鳥 曾我蛇足筆そがじゃそく

礼間 墨画真山水 同 筆

書院 草山水 同 筆

檀那間 四皓 長谷川等伯筆はせがとうはく

衣体間 親子猪頭 同 筆

何似之額 一休和尚筆